

講 評

審査員長
独立行政法人森林総合研究所
多摩森林科学園 園長 吉丸 博志

ただいまご紹介いただきました、審査員長を仰せつかっております森林総合研究所の多摩森林科学園の吉丸でございます。

昨日からの発表会に参加するにあたり、皆様には、日常の業務や学業等でご多忙の傍ら、情熱を持ち、積極的に取り組まれた諸課題に対して得られた成果をまとめ発表いただきましたご努力に対して、深く敬意を表します。また、森のエネルギー研究所の大場様には、森林バイオマスの最新動向と導入のヒントについて、特別講演を頂き、改めて感謝申し上げます。お集まりの皆様の今後の業務に大変参考になったのではないかと考えております。

早速ですが、審査員を代表しまして、皆様の発表につきまして講評させていただきます。

今年度の発表会において、審査対象とした課題には、まず、国有林の組織につきましては、単独の発表が12課題、関係機関等と共同で発表された課題が4課題、茨城、群馬、山梨、静岡の各県からの発表が5課題、森林総合研究所から1課題、更に、学校関係では群馬県立農林大学校、茨城県立大子清流高校、埼玉県立秩父農工科学高校の生徒から、3課題の発表がありました。合計課題数は昨年より1課題少ない25課題でしたが、国有林のみならず、関係県からの発表と、今年度、初めて、林業関係の学校からの発表、今年の発表会を盛り上げていただきました。これは、国有林と関係諸機関、学校等との技術交流が反映されたものと感じます。今後も、続けていただきたいと思えます。

今年は、新たに参加された3つの学校も審査対象としました。

森林技術部門では、一貫作業システム【課題4】やコンテナ苗【課題5】、施業の集約化【課題7、12】、路網整備【課題8】や架線系機械化【課題6】などによる作業の低コスト化・効率化に向けた取組みの発表があり、更なる技術向上が見込まれるものと期待しています。

市場のニーズに対応した木材の生産・販売【課題9】については、木材価格が低迷している現在、販路の拡大につながるものと期待します。東日本大震災に係る森林の除染【課題18、19】や群馬県農林大学校によるきのこ生産等の除染【課題23】は重要な課題であります。

また、溪畔林の再生【課題1】、航空レーザによる植生調査【課題3】、新しいダムの施工方法【課題13】など有効な技術開発が提示されました。

さらに、大子清流高校の学校林における作業道の設計【課題25】の発表は、学校林をフィールドにした学生の取組みとして、興味あるものでした。

森林ふれあい部門では、赤谷プロジェクトでの森林環境調査の指標【課題2】として、市民が親しみながら参加できるように動物を活用した発表でした。

また、准フォレスター育成研修の実施報告【課題11】、森林総合監理士（フォレスター）の活動状況報告【課題10】は、今後の森林施業にフォレス

ターが深く関わっていくものとして興味ある報告でした。

また、秩父農工科学高校において、森林・林業を学ぶ中での様々な取組み【課題24】を発表され、今後期待するものがあります。

森林保全部門では、全国的に森林への被害が深刻化しているニホンジカの食害の状況を把握するチェックシート【課題22】や、森林被害を防ぐため、定点カメラ撮影【課題20】、捕獲柵の設置【課題17】、くくりわなの工夫・人工餌の比較【課題21】、などの様々な取組が提示され、国有林や民有林の対策の参考になったのではないのでしょうか。

ナラ枯れ防除の取組【課題14】では、おとりの丸太に害虫を集めて駆除する方法で、実施結果が期待されます。

東日本大震災後の海岸林の復旧状況報告【課題16】は、市民の生活を津波から守るため、早期に海岸林の復旧を進め、併せて、希少な植物も絶滅させてはならないものであります。

また、希少なホソバシャクナゲの保護を地域と連携して進めている報告【課題15】は、他の地域でも参考になるものだと思います。

審査結果につきましては、後ほど発表されますが、どの発表も本当にすばらしいものばかりで、各賞を決定するにあたっては、審査員一同大変苦労しました。

最後に、この発表会が今後とも盛大に開催されることと、森林情報の発信地点として、一層定着することを祈念しまして、私の評価とさせていただきます。

ありがとうございました。